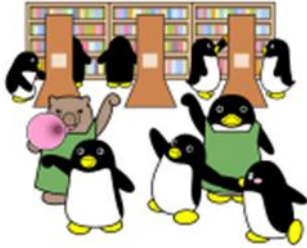


## 今年度も図書館のご利用をお待ちしています！



新年度が始まりましたが、今年は例年以上にたくさんの生徒が利用しています。勉強目的で来る人たちは相変わらず多いのですが、本を借りる・探しに来る人たちも増えました。図書室は、「学習センター」としての役割の他に、「読書センター」としての機能もあります。皆さん、好きな本について友だちと、先生と、家の人たちと語り合ってみませんか？

### 図書委員おすすめの本！

「三島屋変調百物語シリーズ」 宮部 みゆき 著

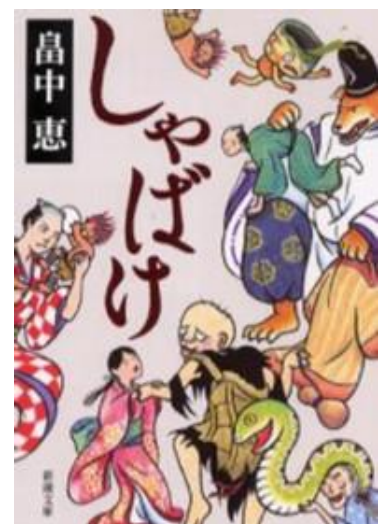


この本の題は「おそろし」、つまりは「恐ろし」、さらに百物語と銘打っているものですから、どれほど恐ろしいものなのかと不安になるかもしれませんが…しかし、ご安心ください！宮部みゆき先生の書く怪談の特徴と言えば「やさしい怪談」と言われるもの。人間に対する慈しみを原点とした彼女の書く怪談は、やさしく、切なく、ほろ苦く感じるものばかり。黒白の間にて語られる怪談は、聞き手であるおちかの心も読者である皆さんの心も溶かすことでしょう。



「しゃばけシリーズ」 畠中 恵 著

先ほどの本もこちらの本も俗に言う時代小説、敷居が高いと思われるがちです。なんといってもずっと昔の江戸時代、娯楽も文化も現代とぜんぜん違うものですから、そう思われても仕方ありません。異世界のごとき江戸時代、ならばふんだんにファンタジー要素を付け加えても問題あるまい。そんなこんなで今までの捕物帖の伝統を受け継ぎつつ、ファンタジックに仕立てたのがこの「しゃばけ」。奇怪で愉快な怪異譚、はるか彼方の江戸時代に思いを馳せるのはいかがでしょうか？



## 青春ゲシュタルト崩壊 丸井 とまと 著

「—私は、完全に自分を見失ってしまった。」

このお話は、青年期失顔症を発症した少女、間宮朝葉が自分を取り戻していくお話です。

この本での重要なキーワード、青年期失顔症。これは青年期に個性を殺し、自分を失うことが強いストレスになることで発症します。失顔症の名の通り、自分の顔が見えなくなってしまうものです。人間関係でのストレスが引き金となり、自分の顔も思い出せなくなります。

私も人間関係に悩むことがありました。今も悩むことがあります。人とぶつかることは誰にとっても怖いことだと思います。そしてその恐怖は、他人に理解されるものではありません。正面からぶつからなくてもいい。自分の居場所は1箇所だけではない。少し苦い青春を描いた物語だと思いました。

朝葉ほどではなくとも、周りと穏便な生活を送るために自分を殺してしまう人も多いのではないかと思います。また新しいクラスメイトとの関係や、新入部員と新先輩の関係が構築されていく時期で、人間関係に悩んでいる人も少なくないと思います。ラブコメ的な要素はありますが、悩みがある人もない人も、どこかで一度手に取って読んでみてほしいです。



### 五高生からリクエスト③

#### 「暖房と冷房が効くようにしてほしい」

⇒ 温度設定については気をつけているつもりですが、入口付近はちょうど良くても、奥の方は暑い(寒い)こともあります。個人差があるので、声をかけてもらえると助かります。特に休日明けの開館日は暖房や冷房の効きがあまり良くないようです。



#### 「過去の英字新聞を貸し出してほしい」

⇒ 希望する場合は、遠慮せず図書担当教員に声をかけてください。総探や進路関係で雑誌を借りたい人もいたりするので、英字新聞や雑誌の貸出は可能です。



#### 「雑学系や歴史系の本を、もっとたくさん置いてほしい」

⇒ リクエストありがとうございます。この2年間は、特に総探や進路関係に関する本を多く購入しているので、歴史関係の本が少ないことを気にしていました。図書館で本を探している生徒には、積極的に声がけをして、探している分野の本を購入するように心がけています。なるべくたくさんの人にリクエストしてもらえると、購入する分野が偏らなくてよいと思っていました。5月の新刊は、進路・総探関係の本が多いですが、6月の新刊は、みなさんのリクエストを反映しています。楽しみにしてください。

